原著 (研究)

子どもが病気になった際の就労中の母親の対応とニーズ

Responses to illness among the children of working mothers and their needs

新井香奈子 安成 智子 太田 千寿 坂下 玲子 片田 範子

Kanako Arai, Tomoko Yasunari, Chizu Ota, Reiko Sakashita, Noriko Katada

要 旨

目的: 本研究の目的は、子どもが病気になった際の就労中の母親の対応とニーズについて明らかにすることである。

方法: 兵庫県の保育所 (園)、放課後児童クラブ在籍児の母親を対象にアンケート調査を実施した。

結果: 1,804 部を分析対象とした。子どもが病気の際、ほとんどの母親が仕事を休んでいたが、引け目を感じる、休んだ分の収入が減る、仕事を頼める人がいないという困難を感じていた。仕事を休まなかった場合にも、子どもをみてくれる人を探す事に苦慮していた。このような状況の中、鼻水・咳などの症状だけではなく、平均 $38.0 \pm 0.4^{\circ}\text{C}$ という発熱している状況でも保育を希望したいというニーズがあった。子どもをあずける際には、実家でみてもらう、安価である、自宅からの距離を重視していた。

結論: 母親と児の生活を大きく変えることなく、児が安心して療養できる病児・病後児施設が、通常利用している保育所 (園)、放課後児童クラブに整備されることが望ましい。

Abstract

Purpose

The purpose of this study was to elucidate the responses and support needs of working mothers whose children are ill.

Method

A questionnaire was administered to mothers with children registered at nurseries and after-school childcare facilities in Hyogo prefecture.

Result

Altogether, 1,804 valid responses were used for analysis. Most respondents took leave from work to attend to their sick children, but they faced difficulties such as lack of understanding at the workplace, loss of income, and the need to find a substitute worker. When they did not take leave, they encountered difficulty in finding baby sitters. Under such circumstances, the respondents wished to have a childcare facility that would accept children with symptoms such as a runny nose, a cough or a temperature of $38.0 \pm 0.4^{\circ}\text{C}$. They asked their parents to care for their sick children whenever possible, and they regarded the cost and the distance from home as important facets of care giving.

Conclusion

It would be desirable to develop childcare facilities for sick and recuperating children in regular nurseries and in the after-school childcare facilities that the children normally attend. This would minimize disruption of the lifestyle patterns of both mothers and children, and would facilitate the recuperation of the children.

(2011 年 4 月 6 日受稿, 2012 年 12 月 6 日受理)

Key words: 子ども (children), 病気 (illness), 就労中の母親 (working mother), ニーズ (need)

はじめに

近年、女性の社会進出による共働き世帯の増加、離婚による母子世帯の増加等により、子どもを保育施設

に預けて母親が就労する事は一般的になってきている。しかし、子育てしながらでも働き続けられる制度や職場環境、育児や介護のための労働時間の配慮¹⁻³⁾を

著者連絡先: 新井香奈子

兵庫県立大学 看護学部 在宅看護学〔〒 673-8588 明石市北王子町 13 番 71 号 兵庫県立大学明石キャンパス〕e-mail: kanako_arai@cnas.u-hyogo.ac.jp

就業継続のために必要としている母親が多いように、保育と勤務の両立支援が整った環境は十分とはいえない。このような状況の中、国はエンゼルプラン、新エンゼルプランを掲げ、育児休業制度などの雇用環境の整備や保育システムの整備・多様化を推進してきた。しかし、児が病気の際や回復期に保護者が看病できるような環境は十分整備されているとはいえず⁴⁾、働く母親の多くは、種々の事柄に苦慮し⁵⁻⁶⁾、子ども自身が無理をさせられているという状況⁷⁻⁸⁾もある。

そこで本研究は、就労中の母親の保育所（園）、放課後児童クラブに通園している子どもが病気になった際の対応とニーズについて明らかにし、保育所（園）、放課後児童クラブ在籍児の母親および子どもに対する支援のあり方について検討する事を目的に実施した。

研究方法

1. 調査方法と対象者

兵庫県の各市町村における“カンガルネット”、“ファミリーサポートセンター”、“病児・病後児保育施設”の整備状況の偏りがなくよう調査対象地区の検討を行い、最終的に兵庫県内 20 市町村を調査対象地域とした。本研究の対象者は、兵庫県 20 市町村の保育所（園）、放課後児童クラブ在籍児の母親である。

保育所（園）、放課後児童クラブの管理者に研究協力の許可を得たのち、母親への質問紙の配布、封書された記入済みの質問紙の回収を各施設に依頼した。対象者数は、5,147 名であり、その内訳は、保育所（園）2,189 名、放課後児童クラブ 2,958 名であった。調査期間は、平成 21 年 8 月 24 日から平成 21 年 9 月 9 日であった。

2. 調査内容

調査項目は、研究者らが文献検討に基づき作成した。調査内容は、対象者の概要（年齢、家族構成、職業、1 週間の就業時間、母親の収入）、子どもが病気の際の対応（仕事を休んだ経験、1 回の病気で最も多く休んだ日数、休んだ病名（自由記載）、仕事を休むにあたり困難だった事柄 7 項目、家族が仕事を休んだ経験や休んだ家族 3 項目、家族が仕事を休まなかった理由 7 項目、仕事を休まずに済むように調整するにあたり困難だった事柄 4 項目、子どもが病気の際保育を希望する子どもの状態 7 項目、病気の子どもの預ける際重視する点 15 項目から構成されている。

質問紙の内容的妥当性は、兵庫県内看護系大学の教員、兵庫県看護協会のメンバーにより組織されている

病児・病後児保育検討連絡会で検討し、いくつかの項目について修正のうえ、最終的な質問紙を作成した。

3. 分析方法

各変数に関して記述統計を行った。その後、調査対象施設である保育所（園）、放課後児童クラブ在籍児の母親と、各々の調査項目についての単変量解析（ χ^2 検定、t 検定）を行った。有意水準は 5%とし、分析には PASW Statistics 18 を用いた。自由記載については、記載内容を熟読し分類した。

4. 倫理的配慮

本研究は、社団法人兵庫県看護協会研究倫理委員会の承認を得て実施した。研究協力依頼文には、研究目的、方法、倫理的配慮について記述した。倫理的配慮として、研究協力は本人の自由意志である事、回答を返送しない場合においても何ら不利益を被らない事を説明し、データ保管方法、プライバシー保護、研究の公表、調査に関する問い合わせ先について明記した。

結 果

1. 質問紙の回収状況

返送された質問紙は、1,913 部（回収率 37.2%）であった。この内、就労中の母親のニーズを分析するため、職業欄が主婦である 109 部を除いた 1,804 部を本研究の分析対象者とした。

2. 対象者の概要（表 1）

調査対象施設の内訳は、保育所（園）児の母親 1,001 人（55.5%）、放課後児童クラブ在籍児の母親 803 人（44.5%）であった。平均年齢は、35.2±4.8 歳（19 歳～51 歳）であり、30 代が 1,220 人（67.6%）と最も多かった。家族構成は、核家族世帯（ひとり親含む）1,344 世帯（74.5%）、ひとり親世帯 241 世帯（13.3%）、祖父母世帯と同居 430 世帯（23.8%）、夫婦共働き世帯 1,533 世帯（85.0%）であった。職業は、パート・アルバイトが 747 人（41.4%）と最も多く、次いで会社員 512 人（28.4%）、公務員 203 人（11.3%）であった。就業時間の平均は 34.9±10.2 時間（4 時間～80 時間）であり、就労時間 21 時間～40 時間である母親が 1,194 人（66.2%）と最も多かった。母親の収入は、100 万円～300 万円未満が 603 人（33.4%）と最も多く、次いで 100 万円未満 470 人（26.1%）であった。

児の在籍施設別にみると、放課後児童クラブ在籍児の母親は、保育所（園）在籍児の母親に比べて、年齢

表1 対象者の概要

n=1,804

	全体		保育所（園） n=1,001		放課後児童クラブ n=803		P 値 ³⁾
	n	%	n	%	n	%	
年代Ⅰ							
10代（19歳）	2	0.1%	2	0.2%	0	0%	
20代（20-29歳）	201	11.1%	166	16.6%	35	4.4%	
30代（30-39歳）	1,220	67.6%	713	71.2%	507	63.1%	
40代（40-49歳）	314	17.4%	104	10.4%	210	26.2%	
50代（50-51歳）	3	0.2%	0	0%	3	0.4%	
不明	64	3.5%	16	1.6%	48	6.0%	
年代Ⅱ ¹⁾							
40歳未満	1,423	81.8%	881	89.4%	542	71.8%	0.000
40歳以上	317	18.2%	104	10.6%	213	28.2%	
年齢（歳） ²⁾	35.2±4.8（19-51）		33.8±4.6（19-48）		37.0±4.5（23-51）		0.000
世帯構成Ⅰ							
核家族（夫婦と未婚の子）	1,208	67.0%	661	66.0%	547	68.1%	
核家族（ひとり親と未婚の子）	136	7.5%	42	4.2%	94	11.7%	
二世帯以上（夫婦と未婚の子＋祖父母世帯他）	325	18.0%	231	23.1%	94	11.7%	
二世帯以上（ひとり親と未婚の子＋祖父母世帯他）	105	5.8%	50	5.0%	55	6.8%	
その他（上記以外）	8	0.4%	3	0.3%	5	0.6%	
不明	22	1.2%	14	1.4%	8	1.0%	
世帯構成Ⅱ ¹⁾							
ひとり親	241	13.5%	92	9.3%	149	18.7%	0.000
その他	1,541	86.5%	895	90.7%	646	81.3%	
職業Ⅰ							
自営業	161	8.9%	138	13.8%	23	2.9%	
会社員	512	28.4%	245	24.5%	267	33.3%	
公務員	203	11.3%	97	9.7%	106	13.2%	
パート・アルバイト	747	41.4%	411	41.1%	336	41.8%	
その他	167	9.3%	101	10.1%	66	8.2%	
不明	14	0.8%	9	0.9%	5	0.6%	
職業Ⅱ ¹⁾							
会社員・公務員	715	39.9%	342	34.5%	373	46.7%	0.000
その他	1,075	60.1%	650	65.5%	425	53.3%	
1週間の就業時間Ⅰ							
4-20時間	201	11.1%	154	15.4%	47	5.9%	
21-40時間	1,194	66.2%	602	60.1%	592	73.7%	
41-60時間	318	17.6%	177	17.7%	141	17.6%	
61-80時間	7	0.4%	4	0.4%	3	0.4%	
不明	84	4.7%	64	6.4%	20	2.5%	
1週間の就業時間Ⅱ ¹⁾							
36時間未満	820	47.6%	479	51.0%	341	43.5%	0.002
36時間以上	903	52.4%	460	49.0%	443	56.5%	
就業時間（時間） ²⁾	34.9±10.2（4-80）		34.0±11.2（4-70）		36.0±8.8（4-80）		0.000
母親の収入Ⅰ							
100万円未満	470	26.1%	288	28.8%	182	22.7%	
100～300万円未満	603	33.4%	300	30.0%	303	37.7%	
300～500万円未満	348	19.3%	179	17.9%	169	21.0%	
500万以上	94	5.2%	34	3.4%	60	7.5%	
不明	289	16.0%	200	20.0%	89	11.1%	
母親の収入Ⅱ ¹⁾							
300万円未満	1,073	70.8%	588	73.4%	485	67.9%	0.019
300万円以上	442	29.2%	213	26.6%	229	32.1%	

1) 欠損値を除く。

2) 数値は、欠損値を除いた平均値±標準偏差（最小値—最大値）。

3) 欠損値を除き、 χ^2 検定、t検定を行った。

40歳以上（放課後児童クラブ：28.2% vs 保育所（園）：10.6%，以下同様），ひとり親世帯（18.7% vs 9.3%），会社員・公務員（46.7% vs 34.5%），1週間の就業36時間以上（56.5% vs 49.0%），母親の収入300万円以上（32.1% vs 26.6%）の割合が有意に多かった。

3. 子どもが病気の際の対応（表2・表3）

1) 子どもが病気の際に仕事を休んだ経験

子どもが病気の際仕事を休んだことがある母親は1,587人（88.0%），休んだことがない母親は145人（8.0%）であった。放課後児童クラブ在籍児の母親は，保育所（園）在籍児の母親に比べて子どもが病気の際仕事を休んだ事のある母親（95.7% vs 88.2%）の割合が有意に多かった。

2) 1回の病気で最も多く休んだ日数

仕事を休んだ母親の内，1回の病気で最も多く休んだ日数0.5日～3日が729人（45.9%）と最も多く，次に4日～7日の596人（37.6%）であった。また，1回の病気で最も多く休んだ日数の平均は， 4.7 ± 4.8 日（0.5日～77日）であった。なお，1回の病気で最も多く休んだ日数は，在籍施設別に差はみられなかった。

3) 1回の病気で最も多く休んだ病名（自由記載）

1回の病気で最も多く休んだ病名（表3）は，小児感染症が899人（56.6%）と半数を占め，その内訳は，インフルエンザ322名（20.3%）が最も多く，次いで水痘153人（9.6%），感冒111人（7.0%），発熱85人（5.4%），肺炎52人（3.3%），流行性耳下腺炎47人（3.0%），感染性胃腸炎44人（2.8%）などであった。その他86人（5.4%）の内訳は，喘息19人（1.2%），気管支炎12人（0.8%）などのアレルギー性疾患，手術，入院，骨折などであった。また，1回の病気で最も多く休んだ日数（表2）における小児感染症，その他の疾患の割合は，児の在籍施設別に差はみられなかった。

4) 仕事を休むにあたり困難だった事項

母親が仕事を休むにあたり困難だった事柄は，「周りは好意的だが，自分が引け目を感じる」が908人（57.2%）と最も多く，次いで「休んだ分の収入が減る」594人（37.4%），「自分の代わりに仕事を頼める人がいない」574人（36.2%）であった。「休むとキャリアの評価に響く恐れがある」は，85人（5.4%）で最も少なかった。また，上位3位「周りは好意的だが，自分が引け目を感じる」，「休んだ分の収入が減る」，「自分の代わりに仕事を頼める人がいない」の割合に在籍施設別の差はみられなかった。しかし，放課後児童クラブ在籍児の母親は，保育所（園）在籍児の母親に比べて

「キャンセルできない予定が入っている（19.1% vs 14.0%）」，「仕事量が多すぎる（15.4% vs 11.2%）」の割合が有意に多かった。

5) 子どもが病気の際の家族による対応の有無

子どもが病気の際家族が仕事を休んだ事があると回答した母親は，942人（52.2%）で，その内訳は（複数回答），父親637人（67.6%），祖母415人（44.1%），祖父105人（11.1%）であった。児の在籍施設別にみると，放課後児童クラブ在籍児の母親は，保育所（園）在籍児の母親に比べて，「子どもが病気の際に母親以外の家族が仕事を休んだ（58.6% vs 50.8%）」の割合が有意に多かったが，休んだ家族属性の割合に差はみられなかった。

6) 子どもが病気の際，家族が仕事を休まなかった理由

家族が休まなかった理由（複数回答）は，「仕事をしていない家族がみた」328人（41.5%）が最も多く，次いで「仕事をしている他の家族が仕事を休んでみた」182人（23.0%），「子連れで仕事した」57人（7.2%），「一人で留守番させた」47人（5.9%）などであった。

また，放課後児童クラブ在籍児の母親は，保育所（園）在籍児の母親に比べて「仕事をしていない家族がみた（35.6% vs 45.6%）」の割合が有意に少なく，「一人で留守番させた（11.7% vs 1.9%）」の割合が有意に多かった。

7) 仕事を休まずに済むように調整するに当たり困難だった事項

仕事を休まずに済むように調整するに当たり困難だった事項（複数回答）は，「自分の代わりに子どもをみてる人を探すこと」408人（51.6%）が最も多く，次いで「仕事に行くまでの間に子どもの体調を少しでもよくすること」233人（29.5%）などであった。

児の在籍施設別にみると，放課後児童クラブ在籍児の母親は，保育所（園）在籍児の母親に比べて「仕事に行くまでの間に子どもの体調を少しでもよくすること（43.9% vs 19.4%）」，「一人で留守番させた時の食事などの準備（13.2% vs 2.4%）」の割合が有意に多かった。

4. 子どもが病気の際保育を希望する子どもの状態と預ける際重視する点（表4）

1) 保育を希望する子どもの状態

子どもが病気の際，通常の保育施設での保育を希望する子どもの状態は，「鼻水だけならみてほしい」が1,328人（73.6%）と最も多く，次いで「咳だけならみ

表2 子どもが病気の際の対応

n=1,804

	全体		保育所（園） n=1,001		放課後児童クラブ n=803		P 値 ⁶⁾
	n	%	n	%	n	%	
子どもが病気の際、仕事を休んだことがあるか							
休んだことがある	1,587	88.0%	833	88.2%	754	95.7%	<u>0.000</u>
休んだことがない	145	8.0%	111	11.8%	34	4.3%	
不明	72	4.0%					
1 回の病気で最も多く休んだ日数 I ¹⁾							
0.5-3 日	729	45.9%	391	46.8%	338	44.8%	
4-7 日	596	37.6%	309	37.1%	287	38.1%	
8-14 日	104	6.6%	52	6.2%	52	6.9%	
15-21 日	13	0.8%	5	0.6%	8	1.1%	
22-31 日	12	0.8%	6	0.7%	6	0.8%	
32 日以上	5	0.3%	4	0.5%	1	0.1%	
不明	128	8.1%	66	7.9%	62	8.2%	
1 回の病気で最も多く休んだ日数 II ²⁾							
0.5 日以上 7 日以内	1,325	90.8%	700	91.3%	625	90.3%	0.607
8 日以上 21 日以内	117	8.0%	57	7.4%	60	8.7%	
22 日以上	17	1.2%	10	1.3%	7	1.0%	
1 回の病気で最も多く休んだ日数（日数） ³⁾	4.7±4.8 (0.5-77)		4.7±5.4 (0.5-77)		4.7±4.2 (1-40)		0.916
1 回の病気で最も多く休んだ病名 ¹⁾							
小児感染症	899	56.6%	463	92.8%	436	89.7%	0.088
その他	86	5.4%	36	7.2%	50	10.3%	
不明	602	37.9%					
仕事を休むにあたり困難だった事柄（複数回答） ¹⁾							
周りは好意的だが、自分が引け目を感じる	908	57.2%	477	57.3%	431	57.2%	0.968
休んだ分の収入が減る	594	37.4%	305	36.6%	289	38.3%	0.481
自分の代わりに仕事を頼める人がいない	574	36.2%	289	34.7%	285	37.8%	0.199
職場の雰囲気が好意的でない	291	18.3%	150	18.0%	141	18.7%	0.722
キャンセルできない予定が入っている	261	16.4%	117	14.0%	144	19.1%	0.007
仕事量が多すぎる	209	13.2%	93	11.2%	116	15.4%	0.013
休むとキャリアの評価に響く恐れがある	85	5.4%	40	4.8%	45	6.0%	0.303
子どもが病気の際、家族（同居・別居含む）が仕事を休んだ事があるか							
休んだことがある	942	52.2%	481	50.8%	461	58.6%	<u>0.001</u>
休んだことがない	791	43.8%	465	49.2%	326	41.4%	
不明	71	3.9%					
休んだことがある家族はだれか（複数回答） ⁴⁾							
父親	637	67.6%	312	64.9%	325	70.5%	0.065
祖母	415	44.1%	216	44.9%	199	43.2%	0.591
祖父	105	11.1%	56	11.6%	49	10.6%	0.621
家族が休まなかった理由は何か（複数回答） ⁵⁾							
仕事していない家族がみた	328	41.5%	212	45.6%	116	35.6%	0.005
仕事をしている他の家族が仕事を休んでみた	182	23.0%	101	21.7%	81	24.8%	0.304
子連れで仕事した	57	7.2%	29	6.2%	28	8.6%	0.208
一人で留守番させた	47	5.9%	9	1.9%	38	11.7%	0.000
通常利用している施設で保育してくれた	17	2.1%	9	1.9%	8	2.5%	0.621
通常利用している施設以外の場所で預かってもらった	10	1.3%	6	1.3%	4	1.2%	0.937
通常利用している施設内に病児・病後児保育室があった	4	0.5%	2	0.4%	2	0.6%	0.720
仕事を休まずに済むように調整するに当たり、困難だったこと（複数回答） ⁵⁾							
自分の代わりに子どもをみてる人を探すこと	408	51.6%	231	49.8%	177	54.3%	0.212
仕事に行くまでの間に子どもの体調を少しでもよくすること	233	29.5%	90	19.4%	143	43.9%	0.000
預かってくれる病児・病後児保育施設などを探すこと	79	10.0%	52	11.2%	27	8.3%	0.177
一人で留守番させた時の食事などの準備	54	6.8%	11	2.4%	43	13.2%	0.000

- 1) 割合は、子どもが病気の際、仕事を休んだことがあるかのうち「休んだことがある」と回答した n=1,587, n=833, n=754 に占める割合をそれぞれ表記。
- 2) 割合は、子どもが病気の際、仕事を休んだことがあるかのうち「休んだことがある」と回答した n=1,587, n=833, n=754 から欠損値を除いた n に占める割合をそれぞれ表記。
- 3) 数値は、欠損値を除いた平均値±標準偏差（最小値—最大値）。
- 4) 割合は、子どもが病気の際、家族が仕事を休んだ事があるかのうち、「休んだ事がある」と回答した n=942, n=481, n=461 に占める割合をそれぞれ表記。
- 5) 割合は、子どもが病気の際、家族が仕事を休んだ事があるかのうち、「休んだ事がない」と回答した n=791, n=465, n=326 に占める割合をそれぞれ表記。
- 6) 欠損値を除き、 χ^2 検定, t 検定を行った。

表3 1回の病気で最も多く休んだ病名（自由記載）

n=1,587

		小項目		中項目		大項目	
		n	%	n	%	n	%
小児感染症	ウイルス感染						
	インフルエンザ	322	20.3%				
	水痘	153	9.6%				
	流行性耳下腺炎	47	3.0%				
	感染性胃腸炎（ロタ、ノロ含む）	44	2.8%				
	手足口病	10	0.6%				
	突発性発疹	8	0.5%				
	アデノウイルス	6	0.4%				
	マイコプラズマ肺炎	6	0.4%				
	麻疹	5	0.3%				
	ヘルパンギーナ	5	0.3%				
	RSウイルス	5	0.3%				
	ブール熱	5	0.3%				
	無菌性髄膜炎	3	0.2%				
	仮性クレープ	3	0.2%				
	結膜炎	2	0.1%				
	ヘルペス	2	0.1%				
	伝染性紅斑	1	0.1%				
	伝染性単核症	1	0.1%				
	ウイルス感染	4	0.3%	632	39.8%		
	細菌感染						
	溶連菌感染症	3	0.2%				
	伝染性膿痂疹	2	0.1%	5	0.3%		
感染症	感冒	111	7.0%				
	発熱	85	5.4%				
	肺炎	52	3.3%				
	扁桃腺炎	5	0.3%				
	中耳炎	5	0.3%				
	股関節炎	2	0.1%				
	尿路感染症	1	0.1%				
	頸部リンパ節炎	1	0.1%	262	16.5%	899	56.6%
その他	喘息	19	1.2%				
	気管支炎	12	0.8%				
	アトピー性皮膚炎	1	0.1%				
	蕁麻疹	1	0.1%				
	川崎病	6	0.4%				
	ネフローゼ	1	0.1%				
	膀胱尿管逆流症	1	0.1%				
	腸重積	1	0.1%				
	痙攣	6	0.4%				
	手術（斜視，ヘルニア，扁桃腺等）	10	0.6%				
	入院（針のんだ，喘息など）	24	1.5%				
	骨折	4	0.3%	86	5.4%	86	5.4%
不明		602	37.9%	602	37.9%	602	37.9%
合計		1,587	100%	1,587	100%	1,587	100%

てほしい」1,157人（64.1%）,「すぐに受診しなくてもよい程度ならみてほしい」1,121人（62.1%）,「病後であっても元気そうならみてほしい」1,008人（55.9%）,「発熱（ ）℃まではみてほしい」834人（46.2%）,「発熱等があっても元気そうならみてほしい」790人（43.8%）であった。「下痢または嘔吐していても回数が多くなければみてほしい」は、350人（19.4%）と最も少なかった。「発熱（ ）℃まではみてほしい」と回

答した際の体温は、平均 $38.0 \pm 0.4^{\circ}\text{C}$ （ $37^{\circ}\text{C} \sim 40^{\circ}\text{C}$ ）で、「 38°C 」が680人（81.5%）と最も多く、次に「 37°C 」77人（9.2%）,「 39°C 」60人（7.2%）であった。

児の在籍施設別にみると、放課後児童クラブ在籍児の母親は、保育所（園）在籍児の母親に比べて、「発熱等があっても元気そうならみてほしい（42.1% vs 50.9%）」,「下痢または嘔吐していても回数が多くなければみてほしい（17.0% vs 23.9%）」の割合が有

表4 子どもが病気の際保育を希望する子どもの状態、および、病気の子どものあずける際重視する点

n=1,804

	全体		保育所（園） n=1,001		放課後児童クラブ n=803		P 値 ³⁾
	n	%	n	%	n	%	
子どもが病気の際保育を希望する子どもの状態							
鼻水だけならみてほしい	1,328	73.6%	718	78.0%	610	79.9%	0.320
咳だけならみてほしい	1,157	64.1%	638	69.3%	519	68.0%	0.581
すぐに受診しなくてもよい程度ならみてほしい	1,121	62.1%	599	65.0%	522	68.4%	0.144
病後であっても元気そうならみてほしい	1,008	55.9%	540	58.6%	468	61.3%	0.260
発熱（ ）℃まではみてほしい	834	46.2%	474	51.5%	360	47.2%	0.080
発熱等があっても元気そうならみてほしい	790	43.8%	469	50.9%	321	42.1%	0.000
下痢または嘔吐していても回数が多くなければみてほしい	350	19.4%	220	23.9%	130	17.0%	0.001
発熱（ ）℃まではみてほしい ¹⁾							
37℃	77	9.2%	33	7.1%	44	12.5%	0.002
38℃	680	81.5%	388	83.1%	292	83.2%	
39℃	60	7.2%	45	9.6%	15	4.3%	
40℃	1	0.1%	1	0.2%	0	0%	
不明	16	1.9%					
発熱（ ）℃まではみてほしい（℃） ²⁾	38.0±0.4（37-40）		38.0±0.4（37-40）		37.9±0.4（37-39）		0.000
病気の子どもの預ける際に重視する点（複数回答・重視したい点3つまで）							
実家（祖父母宅で）でみてもらう	651	36.1%	410	43.9%	241	33.9%	0.000
安価である（利用料金が安い）	622	34.5%	320	34.3%	302	42.5%	0.001
自宅からの距離	574	31.8%	284	30.4%	290	40.8%	0.000
子どもにとって馴染みのある場所である	420	23.3%	233	25.0%	187	26.3%	0.541
医療機関に併設されている	397	22.0%	209	22.4%	188	26.4%	0.058
保育時間	394	21.8%	224	24.0%	170	23.9%	0.963
看護師がいる	377	20.9%	234	25.1%	143	20.1%	0.018
通常利用している施設（保育所、放課後児童クラブ等）に併設されている	235	13.0%	148	15.9%	87	12.2%	0.037
職場からの距離	212	11.8%	88	9.4%	124	17.4%	0.000
預けることを考えた事がない	171	9.5%	98	10.5%	73	10.3%	0.876
通常利用している施設まで迎えに行ってくれる	109	6.0%	38	4.1%	71	10.0%	0.000
発達段階や疾患に応じた食事やおやつを提供してくれる	115	6.4%	74	7.9%	41	5.8%	0.088
保育士（放課後児童指導員）がいる	113	6.3%	92	9.9%	21	3.0%	0.000
自宅に来てくれる	104	5.8%	45	4.8%	59	8.3%	0.004

1) 割合は、子どもが病気の際に通常の保育施設での保育を希望する子どもの状態（複数回答）において、「発熱（ ）℃まではみてほしい」と回答したn=834, n=474, n=360に占める割合をそれぞれ表記。

2) 数値は、欠損値を除いた平均値±標準偏差（最小値—最大値）。

3) 欠損値を除き、 χ^2 検定, t検定を行った。

意に少なかった。また、「発熱（ ）℃まではみてほしい」における子どもの平均体温（37.9±0.4℃ vs38.0±0.4℃）が有意に低かった。放課後児童クラブ在籍児の母親は、保育所（園）在籍児の母親に比べ、「39℃（4.3% vs9.6%）」の割合が少なく、「37℃（12.5% vs7.1%）」の割合が多かった。

2) 預ける際重視する点

病気の子どもの預ける際重視する点は、「実家（祖父母宅）でみてもらう」651人（36.1%）、「安価である（利用料金が安い）」622人（34.5%）、「自宅からの距離」574人（31.8%）であった。医療的側面である「医療機関に併設されている」は、397人（22.0%）、「看護

師がいる」は、377人（20.9%）であった。また、「通常利用している施設（保育所、放課後児童クラブ）に併設されている」は235人（13.0%）、「預ける事を考えた事がない」は171人（9.5%）であった。

児の在籍施設別にみると、放課後児童クラブ在籍児の母親は、保育所（園）在籍児の母親に比べて、「安価である（利用料金が安い）（42.5% vs34.3%）」、「自宅からの距離（40.8% vs30.4%）」、「職場からの距離（17.4% vs9.4%）」、「通常利用している施設（保育所、放課後児童クラブ）まで迎えに行ってくれる（10.0% vs4.1%）」、「自宅に来てくれる（8.3% vs4.8%）」の割合が有意に多く、「実家（祖父母宅）でみてもらう」

(33.9% vs 43.9%)」,「保育士/放課後児童指導員がいる (3.0% vs 9.9%)」,「看護師がいる (20.1% vs 25.1%)」,「通常利用している施設 (保育所, 放課後児童クラブ) に併設されている (12.2% vs 15.9%)」の割合が有意に少なかった。

考 察

1. 保育所 (園), 放課後児童クラブ在籍児の母親の状況

放課後児童クラブ, 保育所 (園) 在籍児の母親の年齢は, 19 歳~51 歳と幅があるが, 30 歳代が 67.6% と最も多かった。職業や収入は, 全体としてパート・アルバイトが多く, 300 万円未満の収入が 59.5% を占めていた。在籍施設別にみると, パート・アルバイトの割合に差はないが, 放課後児童クラブ在籍児の母親の方が, 会社員, 公務員, 収入 300 万円以上, 就労時間 36 時間以上の割合が, 放課後児童クラブ母親に比して高かった。これは, 子どもの就学に合わせて常勤職に復帰する母親がいることや子どもの成長, 放課後児童クラブの開所時間が基本的に 17 時と開所時間が短いこと⁹⁾などの状況により, 保育所 (園) は利用したが, 放課後児童クラブは利用していないという母親が増加するためではないかと考えられた。また, 放課後児童クラブを利用していない児の中には, 短時間子どもだけで過ごす時間帯が発生する可能性があり, 低学年児の安全・安楽の視点から, 就学児にとって利用しやすい放課後児童クラブづくり, 地域の中で児を見守る仕組みが必要と考えられた。

ひとり親世帯 (本研究では母子世帯) 割合は, 放課後児童クラブが保育所 (園) の約 2 倍と増えており, これは, 調査方法が異なる他の調査¹⁰⁾においても同様に, 就学児のひとり親世帯割合は未就学児の 1.8 倍と増えていた。ひとり親世帯の原因の 89.7% を占める離婚¹⁰⁾は, 母親の年齢が上がるほど離婚率が上昇する¹¹⁾ことから, 母親の平均年齢の高かった放課後児童クラブにおいて, ひとり親世帯割合が高くなったと考えられる。また, 核家族 (ひとり親世帯含む) 世帯は, 全体の 74.5% を占め, その内ひとり親世帯の核家族は 7.5% であった。これらから, 児の祖父母との同居率は非常に少なく, 同居親族からの支援が容易に得られにくい環境にあることが伺えた。

2. 就労中の母親の子どもが病気の際の対応

子どもが病気の際, 87.6% の母親が仕事を休んでおり, その割合は, 放課後児童クラブ在籍児の母親の方

が高かった。放課後児童クラブ在籍児の母親の方が仕事を休んだ割合が高かったのは, 児の年齢が高くなるほど種々の疾病や事故経験割合が増加するため, 放課後児童クラブ在籍児の母親の方が仕事を休んだ割合が高かったのではないかと考えられる。また, 1 回の病気で最も多く休んだ日数の平均は 4.7 ± 4.8 日 (0.5 日~77 日) であり, 休んだ病名の 56.6% が小児感染症であった。休んだ日数の最大は 77 日であり, その他に分類された疾患は, 喘息, ネフローゼなどの小児慢性疾患や手術や事故などであった。これら小児慢性疾患や手術, 事故などが, 休んだ日数を引き延ばしているのではないかと考えられた。

母親が仕事を休む際に困難であった事項として, 「周りは好意的だが, 自分が引け目を感じる」が 57.2% と半数を占め, 「休んだ分の収入が減る」, 「自分の代わりに仕事を頼める人がいない」は 35% 以上であった。このように, 子どもが病気の際, ほとんどの母親が仕事を休んでいるが, 母親は休むことへの引け目と仕事の調整, 収入の低下による家計の圧迫などを同時に抱えながら子どもの病気に対応していると考えられた。母親の中には, 責任ある立場をはずされたという報告¹²⁾もあり, 仕事と子育ての両立の困難さは奥深いことがわかる。母親が休暇を取りやすい環境づくり¹³⁾の他に, 今回の調査の職業で最も多かったパート・アルバイトなどの雇用者も, 年休制度などを活用する事により, 急な休みに対応できる労働環境を整える必要があると考えられた。

子どもが病気の際, 家族が仕事を休んだことがある割合は 52.2% であり, その多くは父親, 祖母であった。まずは母親が仕事を休むということが前提にあり, 次に父親, その次に祖母というように調整されている様子が伺え, 子どもがいる就労中の母親への支援の必要性が考えられた。

家族が仕事を休まなかった際に「通常利用している施設で保育してくれた」割合は 2.6% と非常に低く, 「子連れで仕事した」, 「ひとりで留守番させた」, 「通常利用している施設以外で預かってもらった」などの状況から, 体調の悪い児が無理をさせられている場合も少なくないと考えられた。また, 「自分の代わりに子どもをみてくれる人を探すこと」に困難を感じている母親は 51.6%, 「仕事に行くまでの間に子どもの状態を少しでもよくすること」29.5% と, 自分が仕事を休めない際には, 病気をしている子どものケアと同時に, 誰に仕事を休んでもらうか, 如何に子どもの状態を早くよくするかなど, 子どもが病気の際の支援が家族か

らあったとしても、多くの事に苦慮しながら就労している様子が伺えた。

放課後児童クラブの場合は、公務員や会社員の常勤者割合が多くみられたことから、仕事を休む際に「キャンセルできない予定が入っている」、「仕事量が多すぎる」を困難だと感じる割合が保育所（園）よりも高く、また児の年齢が保育所（園）児よりも高いことから、母親や家族が仕事を休めなかった際、「一人で留守番させた」、「一人で留守番させたときの食事の準備」を母親が困難だと感じた割合が高かったと考えられた。

3. 子どもが病気の際の保育施設へのニーズ

子どもが病気の際の保育を希望する子どもの状態として、軽微な症状や受診がすぐに必要でない、病後でも元気などの場合、半数以上の母親が通常の施設での保育を希望していた。同時に、発熱があっても保育を希望する母親は約4割おり、38℃まではみてほしいと回答した母親は、その内80%以上を占め、39℃、40℃という状況でも7.3%の母親がみてほしいと回答していた。今まで述べてきたように、就労中の母親が仕事を休むという事には切実な背景があり、他の調査¹⁴⁻¹⁵⁾においても半数程度の母親が、病気の際に少しの発熱であればみてほしいと答えている。また、多少無理させていると感じても、病気の子どもの保育施設に預けているという現状が報告^{12,13,15)}されており、子どもの体調の変化に気がついて、保育施設や学校に送り出している場合があると考えられた。これらから、仕事を休むことが難しいような出勤前にも、大きなスケジュールの変更なく対応ができると考えられる、通常利用している保育所（園）、放課後児童クラブに病児・病後児施設が整備されることが必要と考えられた。

「発熱（ ）℃まではみてほしい」において、保育所（園）児の母親の平均体温が放課後児童クラブに比して有意に高かったのは、保育所（園）は児を1日預ける施設であり、午睡を取れる布団や看護師がいることから、在籍施設によって母親のニーズが異なっていたのかもしれない。これらから、就学児の場合には、放課後児童クラブに加え、日中の大半を過ごす小学校の学校保健に対するニーズも調査する必要があると考えられた。

また、病気の子どもの預ける際に重視する点では、「実家でみてもらう」、「安価である」、「自宅からの距離」が上位3位を占めていた。これは、母親が出勤する前に児を預ける場合、自宅から遠い場所に預け、就労先

へ向かうことの不便さ、突然の出費を抑えたいという背景から、児にとって馴染みがあり母親にとっても融通がきく実家に対するニーズが高いのだと考えられた。

結 論

子どもが病気になった際、子どもと母親の双方に大きな負担が生じていることが分かった。就労中の母親は、仕事を休んでも休まなかったとしても様々な事に苦慮し、母親が容易に仕事を休めない状況の中で、子どもが無理を強いられている可能性もあると考えられた。このように、子どもは、病気になったという身体的な負担に加え、安心して療養できない状況にあるとも考えられた。母親は、病気の子どもの預ける場所として、児にとって馴染みがある場や、就労の負担にならない場を望んでいた。これらの事から、母親と児が生活を大きく変えることなく安心して療養できる病児・病後児施設が、通常利用している保育所（園）、放課後児童クラブなどに整備されることが望ましいと考ええる。

謝 辞

本研究の実施にあたり多大なご協力をいただきました施設、保護者の皆さまに深く感謝申し上げます。

なお、本研究は、兵庫県が社団法人兵庫県看護協会に委託した「女性の就労支援に向けた病児・病後児保育に関するニーズ調査」の一部として実施したものである。

文 献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局. 平成22年版 働く女性の実情. 厚生労働省. 2010, p74. <http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/dl/10d-all.pdf>. (参照2011-09-22)
- 2) 福山市次世代育成支援に関するニーズ調査. 調査結果報告書（概要版）. 福山市. 2009, p3. <http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/kosodateshien/eshien/keisaijyouhou/jisedai/jisedaishien2008/niizutyousa gaiyouban2008.pdf>. (参照2011-09-22)
- 3) 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 職業家庭両立課. 今後の仕事と家庭の両立支援に関する研究会報告書～子育てしながら働くことが普通にできる社会の実現に向けて～. 厚生労働省. 2008, p5-7. <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/07/dl/h0701-6a.pdf>. (参照2011-09-22)
- 4) 国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部. 第

- 13 回出生動向基本調査. 結婚と出産に関する全国調査. 夫婦調査の結果概要. 国立社会保障・人口問題研究所. 2005, p 12. <http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou13/doukou13.pdf>, (参照 2011-09-22)
- 5) 三好理恵他. 本学看護学科における地域貢献のありかたに関する研究—A 市の母親の子育て支援ニーズに関する調査を通して—. 埼玉医科大学看護学科紀要. 2009, p 35-42.
- 6) 伊藤智子. 保育所に我が子を預ける保護者への意識調査—子どもの病気と小児医療について—. 小児保健研究. 2005, vol. 59, no. 3, p 424-431.
- 7) 百瀬栄美子. 病気時における子育て支援の検討—保育所・児童クラブの保護者を対象とした実態調査の分析—. 日本看護学会 第 36 回小児看護. 2005, p 265-267.
- 8) 佐藤真澄. 病児保育を利用する保護者ニーズに関する調査. 日本赤十字豊田看護大学紀要. 2006, vol. 2, no. 1, p 29-34.
- 9) 川口市福祉部子育て支援課. 川口市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書. 川口市. 2009, p 56. <http://www.city.kawaguchi.lg.jp/kbn/Files/1/20130083/attach/ni-zuzenbu.pdf>, (参照 2011-09-22).
- 10) 堺市. 堺市母子家庭等自立促進計画. 第 2 章ひとり親家庭などを取り巻く現状と課題. 2007, http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_katei/jiritu_kadai.html, (参照 2011-09-22)
- 11) 大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課. 平成 21 年度「離婚に関する統計」の概況. 人口動態統計特殊報告. 厚生労働省. 2009, p 2. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyuu/rikon10/index.html>, (参照 2011-09-22)
- 12) 吉中里香他. 病児保育に関するアンケート調査結果の検討. 九州大学医療技術短期大学部紀要. 2001, vol. 28, p 75-79.
- 13) 長谷川望他. 集団保育児の体調不良時の家庭での対応とその支援策について. 小児保健研究. 2007, vol. 66, no. 6, p 809-814.
- 14) 奥山朝子他. 保育所における健康管理上の問題と看護職導入への期待—秋田市の公立保育所の保母と保護者の意識調査—. 日本赤十字秋田短期大学紀要. 1996, vol. 1, p 57-67.
- 15) 大木伸子. 保育援助の病気時の保育の実態と保護者の支援ニーズ. 小児保健研究. 2003, vol. 62, no. 3, p 350-358.